

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)天神一丁目北14番街区ビル

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.7
Q1 室内環境							0.40	-	-	3.6
1 音環境						3.7	0.15	-	-	3.7
1.1 室内騒音レベル		室内騒音レベルはNC値=40				4.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音						3.4	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		Dr値を約47に設定している				3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能						4.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		吸音材を床・天井の二面に使用している				4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境						3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御						3.0	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能						3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.37	-	-	
2.2 湿度制御						3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境						4.2	0.25	-	-	4.2
3.1 昼光利用						4.1	0.33	-	-	
1 昼光率		昼光率を約3.8に設定している				5.0	0.57	3.0	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.43	3.0	-	
3.2 グレア対策						4.0	0.29	-	-	
1 昼光制御		柱型が外部に出ているため、庇などの代わりになる				4.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		事務所専有部は、全般照明方式で、照度が700lx以上の設定				4.0	0.14	3.0	-	
3.4 照明制御		明るさセンサーによる自動照明制御ができる。				5.0	0.24	3.0	-	
4 空気環境						3.7	0.25	-	-	3.7
4.1 発生源対策						4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		F☆☆☆☆の採用70%以上				4.0	1.00	4.0	-	
4.2 換気						3.6	0.30	-	-	
1 換気量		1人あたり30m ³ /hの換気量を確保				3.0	0.34	4.0	-	
2 自然換気性能						3.0	0.32	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		給排気位置は異なる面からとしている				5.0	0.34	4.0	-	
4.3 運用管理						3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御						3.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.5
1 機能性						3.5	0.40	-	-	3.5
1.1 機能性・使いやすさ						3.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		一人当たりの執務スペースが9m ² 以上				4.0	0.32	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.32	3.0	-	
3 バリアフリー計画						3.0	0.36	-	-	
1.2 心理性・快適性						3.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		天井高さ2700mm以上確保				4.0	0.34	3.0	-	
2 リフレッシュスペース						2.0	0.32	-	-	
3 内装計画		建物コンセプトを反映する取り組み				4.0	0.34	-	-	
1.3 維持管理						4.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		仕上げ材・バリアフリーなどに配慮している				4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		十分な清掃員控室・管理倉庫を設置している				4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.6	0.30	-	-	3.6
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.8	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		レベル2地震動に1.25倍割増しを考慮している。				4.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.3	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		外気取り入れダクトについて、取り入れから機器までガルバリウム鋼				4.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		塩ビライニング鋼管やステンレス鋼管を採用				4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		節水型器具の採用他				5.0	0.20	-	-	
3 電気設備		異なる変電所からの引込みをしている(本線)				4.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3900mm以上確保している	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		事務所の床面積積載荷重は5000レベル5以上を満足している	4.0	0.30	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.2
1 生物環境の保全と創出		生物環境の保全と創出の試みを計画している	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		建物の配置・形態等について周辺のまちなみに調和させている。	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		外装材、舗装材に周辺の街並みらしさを表現する計画	3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		敷地内の歩行者空間の暑熱環境を緩和している	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPImが0.90未満	4.2	0.20	-	-	4.2
2 自然エネルギー利用		自然換気装置を設けている	3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.69	4.1	0.50	-	-	4.1
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	BEMSを採用	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.5
1 水資源保護			4.0	0.20	-	-	4.0
1.1 節水		節水型器具の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	雨水の外構散水利用	4.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	再生水を原水とする雑用水利用	4.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		下地のある部分は、分別が容易な工法を採用している	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.20	-	-	3.8
3.1 有害物質を含まない材料の使用		有害物質を含まない材料を積極的に採用している	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.70	-	-	
1	消火剤	ガス消火材は、窒素	4.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		LCCO2の排出を抑えている	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場・駐輪場ともに附置義務台数を満たしている	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ごみの多種分別回収が可能なストックスペースを確保している	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	